

栄養士

キャリア

新人♡
新採用
1年目

若手👉
栄養士
2～14年目程度
(20～30代中盤)

中堅👉
主任級
(主任栄養士 等)
15年目程度
(30代中盤～)

サブリーダー👉
主査級
(主査栄養士 等)
20年目程度
(40代前半～)

グループリーダー👉
主任主査級
(上席栄養士 等)
25年目程度
(40代後半～)

管理監督者👑
担当課長～
30年目以降
(50代前半～)

主な配置先：保健所、本庁（保健福祉部等） 等

県職員としての土台づくり。
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
組織をマネジメント。

- ・公衆栄養の視点を学び、行政栄養士業務の基本の習得
- ・担当課の業務を理解し、組織の一員としての役割を果たすことができる力
- ・担当業務を通じた市町村や地域の関係者との関係性の構築

- ・担当業務を中心とした地域の健康課題の把握
- ・PDCAサイクルを意識した業務の遂行
- ・法に基づく業務（国民保健・栄養調査の実施や特定給食施設指導）の的確な実施
- ・住民組織や関係団体と連携した公衆栄養活動の企画立案、交渉、事業実施

- ・地区診断による健康課題の明確化と優先順位をつけた施策実施
- ・管内市町村や関係機関の取組状況等の把握と必要に応じた支援
- ・庁内や地域の関係者と連携した公衆栄養事業の的確な遂行
- ・予算・業務量・体制の調整を行いながらの計画立案

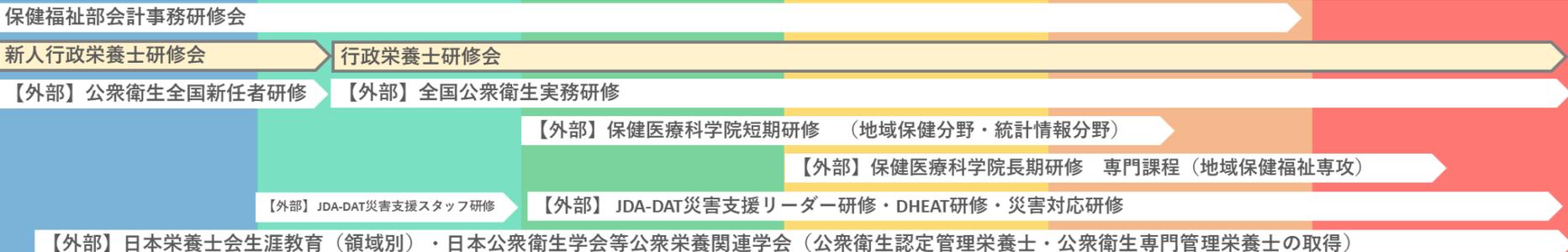
- ・関連計画の進捗管理に関わり、必要な栄養施策を提案
- ・地域の関係者や庁内関係部局との連携、ネットワーク体制の構築、成果を重視した事業の展開
- ・地域の社会資源の開発及び積極的な活用
- ・調査研究の事業企画への反映

- ・県民計画や関連計画の策定、見直し、県栄養施策推進の中核的な役割の担当、成果を上げるための業務展開
- ・幅広い視野を持ち、経営的な視点でチームのマネジメントを補佐
- ・組織方針の中で栄養施策を実現するための政策の方向性を提案、関係者との合意形成

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

👉 若手職員の配置
基礎的な技術・知識を習得するため、先輩栄養士とペアを組み、保健所での公衆栄養業務を経験。保健所や本庁での公衆衛生・公衆栄養の実務を経験しながら、専門性を養成。

職員育成（主な研修）



👉 育成方針：職場を離れて受講する研修（off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（on-JT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。 注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているものは）必修研修であることを表しています。